

参加申し込み、詳細は磐田国際交流協会
ホームページまたはお電話で!



▲問い合わせフォーム

■総会開催のお知らせ

2025年6月に2025年度総会、会員同士の交流会を開催します。交流会では、クイズやゲームで会員同士の交流を深めます。日程や会場が決まりましたら、ご案内する予定です。

■リユース品について

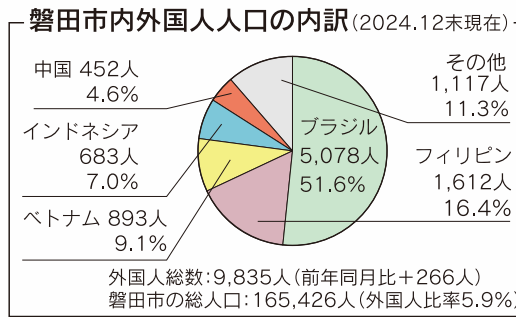
制服、大きいサイズの体操服(中学生、小学生)が不足しています。在庫の状況は流動的なので、持ち込む前に、電話等で確認してください。

■小学校(しょうがっこう)、中学校(ちゅうがっこう)で使(つか)うものを渡(わた)せます。

制服(せいふく)やランドセル、鍵盤(けんぱん)ハーモニカ、リコーダー、体操服(たいそうふく)があります。お金(かね)はいりません。ほしい人(ひと)は磐田国際交流協会(ICE)に取(と)りに来(き)てください。

■Entregas de materiais escolares do ensino fundamental (Shōgakkō, Chūgakkō).

Temos uniformes, mochilas escolares, piano de soprano, flauta e uniforme de educação física. Os materiais são gratuitos. Disponível na Associação de Intercâmbio Internacional de Iwata (ICE). Os materiais serão entregues no balcão da ICE.



磐田・袋井・掛川 見て、聞いて、触れて。 さらばーと磐田で「世界」とつながる特別な一日を体験しよう!

INTERNATIONAL FESTA

イワターサヨク

～多様性豊かな調和のとれた多文化共生の地域づくり～
Creating a diverse and harmonious multicultural community vol.5

1月18日(土)・19日(日)
さらばーと磐田館内6カ所にて開催しました。
来場者は展示やステージ、ワークショップなどに参加して楽しみました。

あなたも日本語教師になりませんか?
(日本語教師養成講座)

詳しくはこちらをチェック!

毎週土曜日 / 「オープンスクール 説明会&授業見学」 毎月開催。まずはお問い合わせを。

学校法人静岡理工科大学 浜松日本語学院
Hamamatsu Japan Language College (担当: 鈴木真理 / 鈴木規之)

浜松市中央区中央3-10-8
Tel. 053-450-6590

■会員募集

会員になって、いろいろな国の方と友だちになりませんか?

【年会費】

個人会員	1,000円	家族会員	2,000円
団体会員	5,000円	賛助会員	1口10,000円

【会員特典】
会報誌「いわたICE NEWS」をお届けします。
協会のイベントや講座の情報をお知らせします。
当協会主催の講座やイベントの参加費を割引します。

■賛助・団体会員の皆様(敬称略・50音順)

【賛助会員】
学校法人静岡理工科大学浜松日本語学院、太平工業株式会社、浜松磐田信用金庫、平野ビニール工業株式会社、ヤマハ発動機ビズパートナー株式会社、株式会社ルマンオート

【団体会員】
磐田市自治会連合会、磐田市文化協会、一般社団法人磐田青年会議所、磐田ユネスコ協会、有限会社兼子鉄工所、国際ソロプチミスト磐田、静岡産業大学、丸西機械株式会社、株式会社ライトハウスエデュケーション

■翻訳

ポルトガル語 インドネシア語 英語 フィリピン語 ベトナム語

・企業内文書(就業規則等)の翻訳
・外国人向けチラシ作成

※その他、会社での日本語学習や生活のサポート
困ったときは、お気軽に(一社)磐田国際交流協会事務局までご連絡ください。

一般社団法人 磐田国際交流協会

〒438-0086 磐田市見付2989番地3 (ワークピア磐田1F) TEL・FAX: 0538-37-4988 (平日 9:00~17:30)

【英語の名言】 Being honest may not get you many friends but it'll always get you the right ones. (John Lennon)
正直であることは、多くの友人を得ることはできないかもしれないが、常に正しい友人を得ることができる。
今でも熱烈なファンをもつジョン・レノンの言葉。



多文化親子ひろば

11月24日(日)・12月8日(日)・1月12日(日)

2024年度から、世界の人びとのためのJICA基金活用事業にて、就学前の親子を対象とした「多文化親子ひろば」を開催することになりました。同じ年代の家族同士の交流や入学前に日本の学校の制度について学び、子どもたち

が様々な生活体験をすることを目的として11月から3月まで月に1回開催しました。今回は、11月から1月までの活動の様子を報告します。

11月 スポーツをしよう 教育について知ろう

講師/NPO法人スポーツコミュニティ磐田・ポーラスター
講師/浜松いわた信用金庫 相川アンジェラ氏

「親子deボルビ」を体験した後、色とりどりのコーンやボールなどを使って遊びました。子どもたちが好きなことをしたり、みんなでコーン倒しをして交流ができました。

子どもたちが活動する間、保護者は日本の教育制度や教育費についての話を聞きました。子どもが小さい頃から計画的に教育費を貯蓄する必要があるということを知り、

参加者は「ライフプランニングの大切さを学んだ」と話していました。



コーンを起こす人 Bom dia (おはよう)

コーンを倒す人 Boa noite (おやすみ)

12月 工作をしよう

講師/福田図書館 大岡晃氏・森田久美子氏

福田図書館の方が講師となり、紙コップロケットを作りました。工作が始まると子どもたちは、はさみや折り紙に夢中になり、自分だけのロケットを作り上げていきます。完成した作品は発射台で飛ばし、高さを

測定しました。

読み聞かせでは、工作に関連したお話を聞き親子で楽しみました。



1月 栄養のお話を聞こう・お弁当を作ろう

最初に栄養のお話を聞き、調理開始です。

子どもたちは、ブロッコリーやしめじの小房分けを担当。

じゃがいも、ベーコン、チーズをアルミカップに重ね入れ、オープンへ。菜飯ご飯のスティックもにぎりました。

小学生は講師と一緒に鶏肉の炒め物、卵焼きなどを作り、お弁当を自慢げに見せてくれました。親のグループでは、外国人の方が初めて「卵焼きを巻く」姿もありました。今回は日本のお弁当作りでしたが、外国の料理も作ってみたいという声もあがりました。

講師/NPO法人こどもの森 吉田隆子氏・谷川照代氏
講師/磐田市健康増進課 菊崎こずえ氏



スキルアップ研修 全4回/第1回 多言語カフェ 12月14日(土)

多言語カフェとして、ポルトガル語と中国語をいつも日本語支援者として活動している皆さんが学習者の立場になって学びました。

はじめに、ポルトガル語の遊び『Batata Quente』で盛り上がり、「好きなもの・好きなこと」をそれぞれの言葉

で言えるように練習し、覚えた言葉を使ってペアで対話してみました。

参加者からは、「中国語に対し皆が興味を持つようになりうれしかった」「日本語教室に来てくれる学習者さんたちの気持ちをくみとって、支援者として頑張りたい」という声もあがりました。



磐田市立総合病院の防災訓練見学

12月1日(日)

地域防災訓練の日、磐田市立総合病院でも5年ぶりに防災訓練が行われました。

災害時磐田市立総合病院は、救護所でトリアージされた結果運ばれてくる方を受け入れる施設ですが、実際には救護所に行かずに直接総合病院へ来る人も想定されるため、この日はトリアージ訓練が行われました。来院者の中には、日本語がほとんど分からない外国人もいます。そこで、磐田国際交流協会の「いわた多文化防災の会(i-TABO)」のメンバ



ーが訓練を見学し、課題や改善の具体例などについて病院の方と共有しました。これからは様々な機関と連携して、防災・減災や被災後のことについて考えたり市民の皆さまに広めたりしていきたいと思っています。

イヤーエンドパーティー

12月1日(日)

7か国、約90人の会員・市民が各国の料理などを持ち寄り交流しました。ステージでは、ダンスやボサノヴァのパフォーマンスが繰り広げられました。その他、演奏に合わせ、みんなで踊ったり、バルーンアート、クイズ、ビンゴ大会で盛り上がりました。



磐田市日本語教室 ワークピア磐田

入門・初級・こどもクラス合同「防災教室」

1月19日(日)

磐田市消防署の方を招いて、「緊急通報ができる」「AEDの使い方が分かる」「消火器の使い方が分かる」を目標に、防災教室を行いました。

緊急通報や消火器の使い方に関しては、知らないという学習者がほとんどでしたが、実際に緊急通報やAED、消火器の体験を通して、緊急時の対応の仕方について学ぶことができたようです。

【磐田市消防署の方から】
様々な国の方が参加しての講習だったので多くの発見

があった。現場の消防士はあまり外国人と話す機会がないが、今回119番通報体験を通して、外国の方が日本語で話している様子を見ることができ、自分たちもどのように質問をしたり、伝えたりしたらいいかを実践的に学べたと思う。



▲心臓マッサージ

外国人参加者と話して特に印象に残っているのは、「ヘビがでたら緊急車両を呼ぶ」国があるということだ。通常日本では対応できないが、国や地域で色々な習慣や考え方があることを知った。

参加者の皆さんには、講習で知ったことや学んだことをいま一度振り返り、ご家族やご友人、職場の方にも広めていただきたい。特に119番通報については、必要最低限の情報さえ分かれば、救急車や消防車の出動は可能だということを知ってもらえれば、と考えている。



▲「いざというとき」のために学習しました